

研 修 名	平成19年度ボランティアアシスタント・アドバイザー研修		
主 催 者	北見市社会福祉協議会地域福祉課		
所 在 地	〒090-0036 北海道北見市寿町3-4-1 北見市総合福祉会館内		
連 絡 先	TEL 0157-61-8181 FAX 0157-61-8183 URL http://www.kitami-shakyo.or.jp/		
推 薦 支 援 センター等名	北見市ボランティア市民活動センター		
研 修 分 類	1 学校と地域の連携を内容とする研修プログラム		○
	2 その他 ()		
研 修 コー ス	1 基礎コース		○
	2 スキルアップコース		
	3 その他 ()		

研修の実施に至る背景

北見市では、高齢化率の増加、人口増加の鈍化などにより、関係機関などから寄せられる年間5千件ものボランティア派遣要請ニーズが複雑多様化していた。そのニーズに応えていくために、既存のボランティア団体及び社会福祉協議会の個人登録ボランティアがフル回転の状況で、現状のボランティア数では将来的にパンク状態に陥ることが想定されている。

併せて平成9年11月20日の第52回国連総会で日本が提案し123カ国の満場一致で平成13年を「ボランティア国際年」とすることが決議され、そこに示されている、①ボランティアに対する理解を広める。②ボランティアへの参加が促進される環境を整備する。③ボランティアのネットワークを広げる。④ボランティア活動を推進する。四つの目的が掲げられた。

また、当時厚生省（現：厚生労働省）は、平成5年度に「国民の社会福祉に関する活動への参加の促進を図るための措置に関する基本的な指針」の中で、自らもボランティアとして活動に参加しながら、活動の意欲を持つ人に対して身近なところで相談に応じることのできるリーダー的な役割を担う人材の育成が必要であると提言した。

そこで、地域においてボランティア活動を行っている実践者に研修の機会を提供することによって、北見市におけるボランティア活動の一層の振興を図ることを目的としてボランティアアドバイザー養成研修会を開催する運びとなった。

また、ボランティアアシスタントは、昭和62年にパリのボランティアセンターへの視察

をきっかけにボランティア自身がコーディネートをしている現状から、北見市に置き換えて発足、スキルアップのための研修をアドバイザー研修と併せて毎年開催している。

研修の企画・立案

こうした状況下において、北見市社会福祉協議会では、ボランティアアドバイザー養成研修を企画するに当たり、まず、理解しておいてもらいたい基本的事項（事業の趣旨やねらいなど）に加え、アドバイザー・アシスタントに必要なスキルを身に付けるための実践的なプログラム作りを目指した。

このようなことから、対象、開催日数を決めた上で、プログラムを次のような内容及び方法にすることとした。

講師については、平成17年度から平成19年度まで同じ講師により実施。スキルアップを図るものとした。

平成19年度は次のとおり実施することとした。

- 1 ボランティア活動の相談Ⅱ・・・・・・・・・・講義
- 2 ボランティア活動の相談支援Ⅱ・・・・・・・・・・演習（グループワーク）

1については、現在の福祉の現状について講義を受け、アドバイザー・アシスタントの意味を考え、相談の基礎についてや援助者のあり方について講義を受ける。

2については、実際に参加者に相談役・援助役となり体験してもらう学習方法が効果的と考え、ワークショップやロールプレイの手法を取り入れることとした。

また、講師は、1・2ともに、福祉講座・ボランティア講座などを全国で展開している方を招聘することとした。

研修の内容

①主催及び共催

主 催 北見市社会福祉協議会

②対象者及び定員

対象者 ボランティアアシスタント・ボランティアアドバイザー
定 員 なし

③研修プログラムの展開内容

平成19年10月15日（月）

会場：北見市総合福祉会館体育集会室

10/15	13:30	(75分)	14:45	15:00	(90分)	16:30
	< 講義 > 「ボランティア活動の相談Ⅱ」			休憩	< 演習（グループワーク） > 「ボランティア活動の相談支援Ⅱ」	

④研修の実施に当たってのポイント・留意点

今回の研修は、ボランティアアシスタント及びボランティアアドバイザーを対象としており、ボランティアの身近なところであらゆる相談ができるための基本やコーディネーターに必要なスキルを身に付けるための実践的な内容とし、実際に演習してもらう学習方法を導入したのが特徴である。

このような研修方法により、依頼した講師に、研修の趣旨等を理解いただくよう、綿密な打ち合わせを行った。

研修の成果と今後の取組

研修終了後の参加者から、変化のある福祉事情を学び、情報過多な時代の中で、惑わされず的確に答えを導きだすことを学んだと好評であった。

さらに、資質の向上につながったことや情報交換の機会を得ることができたとの声も聞かれた。

また一方で、先進事例の現場を見てみたいという要望や、アドバイザー・アシスタントの増員について要望や、現在の参加者の高齢化や個人情報についての課題もあった。

これらの要望や課題を受け、次回は、更に資質向上を図るための実践的な内容を盛り込み、他市町村の先進事例を学ぶことも考慮したいと考えている。

執筆者職・氏名：北見市社会福祉協議会地域福祉課

ボランティア係 主事 矢久保ゆかり

コーディネーターからの一言コメント

ボランティア活動の振興を図る上で、ボランティア自身がコーディネーション能力を持ちアドバイザーとして他のボランティアの相談に応じることができるようにという考え方は、実践的要請に裏付けられて有意義であると考えます。現場のリーダー養成でもある。相談業務のあり方についての基礎的な考え方を前半の講義で説明し、実際のスキルをワークショップやロールプレイで体験する演習の組み合わせも効果的であると思う。

（橋本 洋光）